

## 夏を乗り越えて



▲父：豊 子ども：幸四郎

カナダヤマアラシ担当 吉 富 健

忘れもしない平成16年7月17日の朝、いつものようにカナダヤマアラシ舎に行くと、地面に黒色の物体がありました。「なんだ？あなたは、どこからおいでで？」一瞬頭の中でいろんな事を考えました。取り急ぎ展示場内に入ってみると…。

ナントそこにいたのはカナダヤマアラシの赤ちゃんではありませんか！その時の喜び様は、今でも鮮明に思い出せます。当園ではカナダヤマアラシの自然繁殖

成功例がなかったことから、私の目標の一つでもありました。

早速獣医師や先輩に相談し、環境整備に取り掛かりました。まず、母子を室内に移し、樹上性動物のカナダヤマアラシの赤ちゃんが室内の高所から落ちないように脱落防止の措置を取りました。さて、ここからが一番大変なんです。

私がまだ当動物園に配属になる前、母親のメープルは妊娠したまま当動物園にやって来ました。その後無事出産したのですが、赤ちゃんは7月31日「熱中症」によりわずか3ヶ月で死んでしまいました。その事例を聞いていた私は、「意地でも、夏を乗り越えさせてみせる！」と思っていました。

そして、「暑さとの戦い」がはじまったのです。室内には、大型扇風機、展示場には、気化熱を利用しようと、時間を見ては水を撒き、さらには朝、昼、夕と1.5リットルの凍らせたペットボトルを毎回8本ずつ設置、予備として冷凍室には常に40本の凍ったペットボトルを。まるで氷屋さんでした…。しかも、よりによって今年の夏は、例年にない猛暑続き。何度も熱中症の事が頭をよぎりましたが、その努力が報われた？と感じられる喜ばしい出来事がありました。8月1日、赤ちゃんがペットボトルの上で涼んでいるのを初めて確認したのです。その後も数日間猛暑が続いたものの、快適に過ごしているようでした。「まずは、一安心。あと一ヶ月の辛抱。9月になれば涼しくなるだろう」と、自分で自分を励ましながらい氷を運び続けていたことを思い出します。

今回の自然繁殖成功にあたっては、上野動物園カナダヤマアラシ担当の玉井さんから様々な点でお力添えをいただきました。また、獣医、代番者（休みの時に自分の担当動物を飼育する職員）そして諸先輩方からも日々心暖かいエールを送っていただきました。みなさんに感謝の気持ちで一杯です。

現在、子どもは皮膚の真菌症（カビの一種が感染）で入院中ですが、食欲もあり元気に成長を続けています。また、11月26日には母親の周辺に硬いトゲが5・6本落ちていました。これは交尾した可能性があることを意味しているのか、今後も注意深く飼育観察していきたいと思います。